

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	ビートルズ&クイーン ロンドン・クラシックス 1966カルテット						
目的・内容	<p>[趣旨・目的] ビートルズとクイーンの珠玉のメロディを演奏する公演を開催することで、クラシック音楽の入門編として、クラシックコンサートに馴染みのない層を取り込み、新たな鑑賞者の拡大を図る。</p> <p>[内容] ビートルズ初代ディレクター高嶋弘之がプロデュースする「ビートルズ&クイーン ロンドン・クラシックス」をヴァイオリン2名とチェロ、ピアノのカルテット「1966カルテット」が最高の音楽として届ける。 (プレ事業)「高嶋弘之トーク&江頭美保子ピアノミニコンサート」5/6 未来中心アトリウム (リピーター育成)「弦楽ワークショップでひもとくビートルズとクラシック音楽」7/8 未来中心リハーサル室</p>						
開催日時	平成24年6月2日(土) 開演13:00						
会場	倉吉未来中心 大ホール						
入場料 (友の会)	S席 3,500円 (3,000円)	A席 3,000円 (2,500円)	高校生以下 1,000円				
集客状況	入場者数	310名	設定席数	904席			
事業費状況	予算額	収入	1,961,000円	支出	1,942,000円	収支比率	101%
	決算額	収入	829,000円	支出	1,490,541円	収支比率	56%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 148名(48%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァイオリンを習い始めた娘と一緒に来ました。はじめたばかりなのできれいなお姉さまたちのすてきな演奏を聞いて良かったです。きっと、すばらしいお手本に出会った娘はより一層おけいこをがんばると思います。私もすっかり4人のファンになりました。キレイで、パワフルで情熱的な演奏をありがとうございました。 ・ビートルズの楽曲をクラシックで聞くのも、とてもおもしろいです。オーケストラとは違う音色がありました。 ・せっかく良いコンサートなのに観客の入りが少ないすぎる。もっと販売努力をしてほしい。高校生以下の料金設定があるので、高校総合文化祭の当日と重なっているの、調整すべき。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果] ・クラシックの愛好者とは異なる客層の来場があった。また、クラシック又は弦楽演奏を初めて鑑賞する来場者が28%あり、新規鑑賞者の獲得に成果が見られた。 ・プレ事業、又は広報誌アルテ等を通じ、地域アマチュア活動者(倉吉ビートルズ)と本公演を結びつけ、プロの公演を通じて地元文化活動者の紹介ができた。</p> <p>[課題等] ・アーティストの知名度、地域のニーズとのずれ等から十分な集客が出来ず、企画選定に課題があった。 ・知名度の低いアーティスト、公演内容(企画イメージ)が伝わりにくい公演は、大胆なターゲットの絞り込みが必要である。</p>						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果] ・(新規顧客)新規顧客を獲得できたことは評価できる ・(演奏の質)作品は聞きなれた曲で気持ち良く聴けるものであった。ロックやポップスをアレンジした新しいクラシックの魅力を伝えることが出来た。 ・(担当者の事業推進)広報等に対する様々なアプローチができた。</p> <p>[課題等] (会場の選択) ・小ホールでもよかったのではないかと。大ホールで参加者(来場者)が少ないのはさびしい。 (企画、及びアーティストの選定) ・ポスターは多く見かけたが、アーティストの知名度、良さを伝えるににくい公演は観客を集めることは難しく、事業選定の見極めが必要である。 ・アーティストの問題として、プロのコンサート感が足りなかった。(舞台、演出を含め) ・楽曲(ビートルズ、クイーンの曲)と演奏形態(弦楽)に満足感が得られない。プログラムのコンセプトが不明瞭である。 (マーケティングの問題) ・県民ニーズのリサーチの必要性と、代替案としての事業にも厳しい精査が必要。(本公演は代替案事業であった) ・プレ、リピーター育成事業の満足度の低さについて、検証して次に生かすことが重要である。 ・ターゲットの明確化(コストパフォーマンスの向上)とTPOにあわせた柔軟な広報企画等が必要である。 (その他) ・リピーター育成として実施された公演が本公演前に県内各地で開催されていたらと感じる。 ・担当評議員への一般アンケートは不要である。 ・座席設定に工夫がある。(鑑賞効果による細かな設定、大学・留学生席など) ・スケジュール(地域行事)とアクセス(チラシへのバス停表記など)に対する配慮が必要である。</p>						
今後の対応、 取組状況	<p>(事業選定と提案の問題) ・①事業選定時において単に企画書により提案事業を評価せず、実際に公演を鑑賞する。②理事・評議員等の専門家及び鑑賞者の意見を参考にする。③Web等を活用し、より多くの情報を収集することに努める。 ・県民ニーズ及び質の担保を十分意識しながら、人気アーティストの公演等ある程度収益が見込める公演と、芸術性が高いがあまり収益が見込めない公演をバランス良く選定していく。 (マーケティング、広報) ・「顔が見える」在り方で、地域に根を張った応援者の獲得を図っていく。</p>						